セゾンエアコン　据付説明書・電気配線工事説明書

FDKVP（セゾンインバータ）　401～801

PHA012D006

＜お願い事項＞
○取扱説明書を見ながらお客様に実際に操作していただき、正しい運転のしかた（特にエアフィルタの清掃、運転操作のしかた、温度調節の方法）をご説明ください。
○長期間使用しない時は、電源スイッチを切るようお客様にご説明ください。

①据付のまえに

○据付はこの据付説明書に従って正しく行なってください。
○工事計画にあっておりますか。

機種・電源仕様
確認してください
配管・配線・小物部品

付属品

〈付属品〉※本体にテープで貼り付けられています。

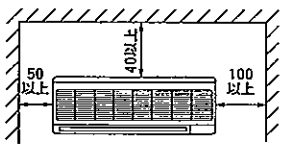
据付関係

1	据付板		1個	室内ユニット裏面に付属
2	タッピンネジ		8個	据付板用　径4mm×長さ25mm
3	インシュレーション		1個	断熱用　50mm×160mm

工事完了後、これだけは再チェック願います。		
チェック項目	不良だと	チェック欄
室内外のユニットの取り付けはしっかりしていますか。	落下・振動・騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体に表示の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

②室内ユニットの据付場所の選定

（室内機）据付スペース



お願い　●点検、メンテナンス作業のためスペースを確保してください。

お願い

据付場所は下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。

- ●冷風または温風が十分行きわたる所。
- ●室外への配管、配線のしやすい所。
- ●ドレン排水が完全にできる所。
- ●据付部の壁が強固である所。
- ●吸込口、吹出口に風の障害のない所。ショートサーキットしない所。
- ●火災報知器の誤動作しない所。
- ●油の飛沫や蒸気の多い所は避けてください。
- ●直射日光が当たらない所。
- ●高周波を発生する機械がある所は、避けてください。
- ●周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80%以下の所。

（本ユニットはJIS露付条件にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下するおそれがあります。）

③室内ユニットの搬入、据付

搬　入

お願い

- ●搬入時は、できるだけ据付現場の近くまで梱包のまま搬入してください。
- ●やむをえず解梱して搬入する場合は、ナイロンスリングなどで包みユニットを傷つけないように注意してください。
  注）吹出ルーバ部分を持たないでください。
- ●解梱後ユニットを置く場合は、必ずユニットの前面側を上にしておいてください。

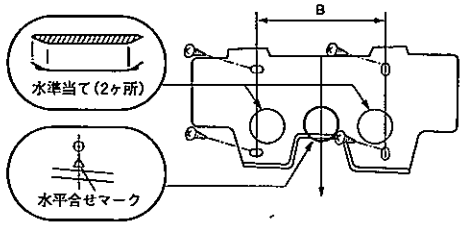
据付板の取付け

お願い

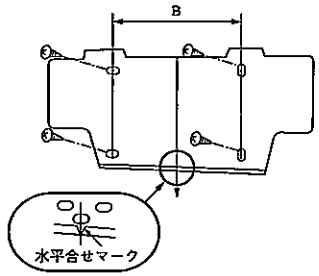
- ●室内ユニットは重量が約12kg（ハイパーインバータシリーズ63~80、標準シリーズ71~80：13.5kg）あります。したがって据付けようとする場所がそのユニットの重量に耐えられるか検討し、危険と思われましたら板あるいは桁等で補強して据付作業を行ってください。また、このユニットを直接壁面等に据付けることはできません。いずれの場所に据付ける場合にも必ず付属の据付板を使って据付けてください。

○壁内の構造物（間柱など）をさがして水平を確認してから強固に取付けてください。

ハイパーインバータシリーズ40~56、
標準シリーズ40~63　の場合



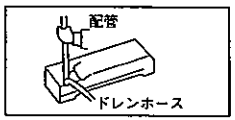
ハイパーインバータシリーズ63~80、
標準シリーズ71~80　の場合



配管・ドレンホースの整形

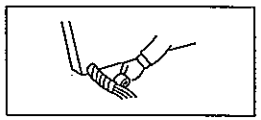
（後取り出しの場合）

○配管の整形



●配管の根元を押さえ向きを変えてから延ばし整形する。

○テープ巻き

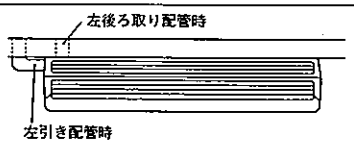
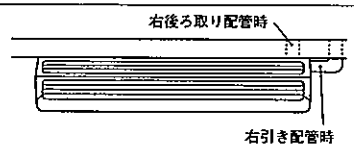


●壁穴を通す長さ分だけテープ巻きしてください。
●渡り配線は必ず配管とテーピングしてください。

配管の整形後テープ巻きを行う前に接続電線が端子台にしっかり固定されていることを確認してください。

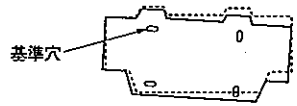
（左取り出し・後取り出し時の注意事項）

〈上から見たところ〉

左引き配管時	右引き配管時
	

ハイパーインバータシリーズ	40~56	63~80
標準シリーズ	40~63	71~80
B 寸 法	450	690

○据付板の水平調節は4本のねじを仮締めした状態で行います。

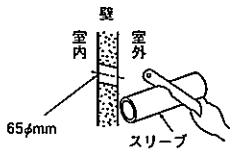


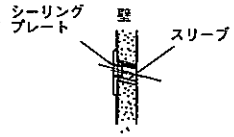
○基準穴を中心に回転し水平になるよう調節します。

⚠警告

・据え付けは、重量に十分に耐える所に確実に行ってください。強度不足や取り付けが不完全な場合にはユニット落下によりケガの原因になります。

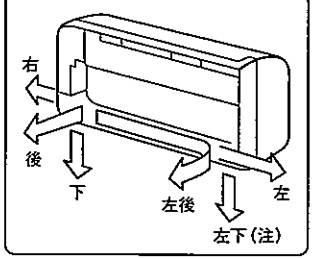
壁の穴孔け要領





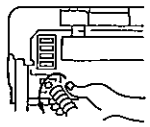
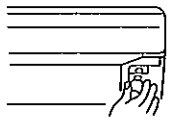
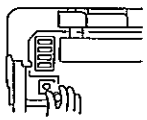
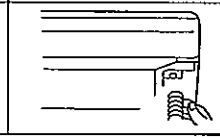
○室内から室外にむかって下り勾配（5°）をつけてください。

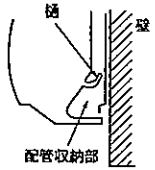
配管は、後、左、左後、右、下から取り出せます。



注：左下から配管が取り出せるのは、
ハイパーインバータシリーズ40~56、
標準シリーズ40~63のみです。

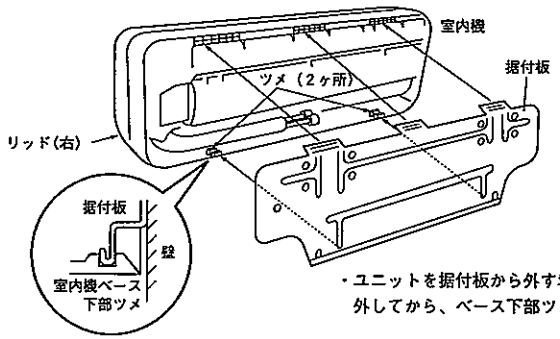
〈ドレンホース付替え作業手順〉

1.ドレンホースを外します。	2.ドレンキャップと断熱材を外します。	3.ドレンキャップと断熱材を差し込みます。	4.ドレンホースを接続します。
			
●ドレンホースを回転させながら外してください。（ハイパーインバータシリーズ63～80、標準シリーズ71～80の場合は、バネ式クランプをゆるめて外してください。）	●手または、ペンチ等で外してください。	●2.で外したドレンキャップを六角レンチ等をもちいて確実に差し込んでください。 注：確実に差し込まれていないと水漏れの原因になりますのでご注意ください。	●ドレンホースを回転させながら確実に差し込んでください。（ハイパーインバータシリーズ63～80、標準シリーズ71～80の場合は、バネ式クランプをゆるめてドレンホースを確実に差し込んでください。） 注：確実に差し込まれていないと水漏れの原因になりますのでご注意ください。



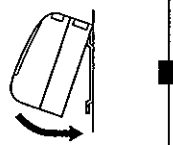
このエアコンは背面についた露をドレンパンに集めて排水する構造になっていますので、樋より上方に電源コード等を収納しないでください。

ユニットの据付



・ユニットを据付板から外す場合は、左右のリッドを外してから、ベース下部ツメを外してください。

据付作業手順



①据付板に室内機上部を引っ掛ける。

②室内機下部を軽く押せばワンタッチで固定できます。

④冷媒配管

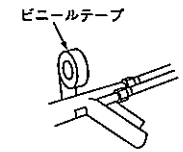
フレアナット締付トルク

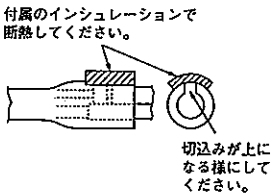
φ 6.35： 14～ 18(N・m), (1.4～1.8kg・m)　φ12.7 ： 49～ 61(N・m), (4.9～6.1kg・m)
φ 9.52： 34～ 42(N・m), (3.4～4.2kg・m)　φ15.88： 68～ 82(N・m), (6.8～8.2kg・m)

ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。

※液側配管は断熱しないと結露し水漏れします。

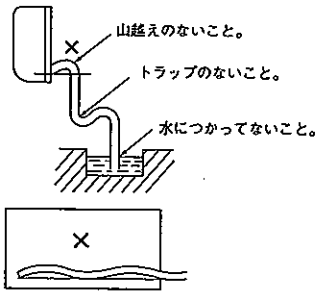
●ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで２丁掛けして外してください。
（このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。）
●フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで３～４回転ねじ込み、２丁スパナ掛けでしっかりと締め付けてください。
●配管は下記材質のものをご使用ください。なお別売配管セットを使用されると便利です。
（材質）リン脱酸銅継目無銅管（C1220T、JIS H3300）
●室内機のフレア接続部は、ガス漏れチェック後、室内ユニットの断熱材で覆い、付属のインシュレーションで切込み部を断熱してからテーピングしてください。
●配管は、ねじったり・つぶしたりしないでください。
●配管内はゴミ・切粉・水分が混入しないように施工してください。





⑤ドレン配管

お願い
- ドレン配管は、ドレンホース先端に硬質塩ビパイプ一般管VP−16が接続可能です。
- ドレン配管はドレン水が流れやすいように下り勾配にし、配管途中にトラップをつくったり山越え配管をしないようにしてください。
  （左、右、後、下方向に取出し可能）
  室内に施工の硬質塩ビパイプ（VP−16）は保温してください。
- ドレン配管の出口は異臭の発生する恐れのない場所に施工してください。
- ドレン配管はイオウ系有害ガス及び可燃性ガスの発生する下水溝に直接入れないでください。室内に有害ガス及び可燃性ガスが侵入する恐れがあります。
- 熱交換器の下のドレンパンに水を注ぎ室外へ排水されることを確認してください。
  （前面パネルの取付け取外しについては裏面「電気配管工事」の「配線の取り付け」を参照ください。）



⚠ 注意　確実に工事し、排水の確認をしてください。水漏れの原因になる恐れがあります。

電気配線工事

電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

Ⓐ 電源・室内外接続線

お願い
室内外接続線は3心ケーブルを使用してください。

⚠ 警　告

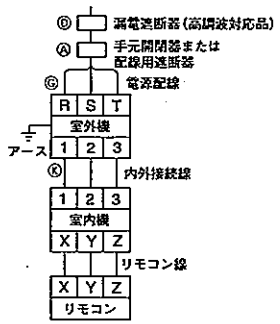
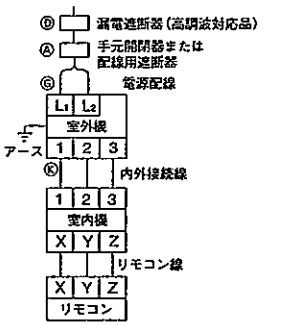
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。
- 電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及びこの据付工事説明書に従って施工し、必ず専用回路とし、かつ定格の電圧、ブレーカーを使用する。電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災等の原因になります。

⚠ 注　意

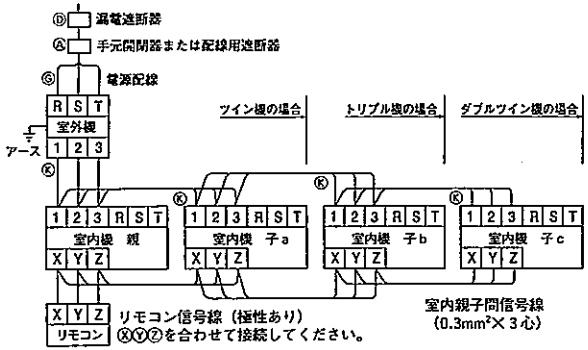
- アース工事を行う。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース線が不完全な場合は感電の原因になります。
- 電源には必ず漏電遮断器（高調波対応品）を取付ける。漏電遮断器が取付けられていないと感電の原因になります。
- 正しい容量のブレーカー（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）・配線用遮断器）を使用する。大きな容量のブレーカーを使用すると、故障や火災等の原因になります。

シングル機の結線

①本機はヒータレス専用（含む冷専）です。ヒータは取り付けられませんのでご注意ください。
②電源の取り方は下表の接続パターンから選定し、行ってください。室内電源取り及び室内外別電源取りは原則できません。
　※例外的な接続方法の場合は技術資料を参照のうえ、所轄の電力会社にご相談の上指示に従ってください。
③室内外接続線は極性がありますので、必ず同一端子台番号間を接続してください。
④電源には必ず漏電遮断器を取付けてください。
　漏電遮断器は、インバータ回路用遮断器（三菱電機製NV-Cシリーズまたは、その同等品）を選定してください。
⑤漏電遮断器が地絡保護専用の場合には、漏電遮断器と直列に手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）または、配線用遮断器が必要となります。

三　相　機	単　相　機
	

ツイン・トリプル機の結線



①室内親・子機間は端子台①②③及びⓍⓎⓏの同一番号間を接続してください。
②室内基板上のロータリスイッチＳＷ２により、同一冷媒系統すべての室内機を同一アドレスに設定してください。
③室内子機は、室内基板上のアドレススイッチＳＷ５-１,ＳＷ５-２により、子ａ～子ｃに設定してください。

④電源投入後、リモコンの「エアコンNo／点検」スイッチを押し、接続されている室内親・子機No.がリモコンに表示される事を必ず確認してください。

室内機の親・子設定方法

工場出荷時「親」設定		室内機			
		親	子a	子b	子c
室内基板アドレススイッチ	SW5-1	OFF	OFF	ON	ON
	SW5-2	OFF	ON	OFF	ON

開閉器・配線仕様

〈シングル・ツイン・トリプル機：ヒータレス〉Ｖマルチ（システム）も同一

注 (1)配線こう長は、電圧降下2%とした場合を示します。表示の配線こう長を越える場合は、内線規程により配線太さを見直してください。
Ⓚの記載なき欄の配線こう長は50mです。
(2)室内外接続線Ⓚは総長70mまでとしてください。
(3)衝撃波不動作形のブレーカーを使用してください。

	室外機		漏電遮断器 定格電流	手元開閉器		配線用遮断器	電源配線 注(1)		内外接続線 注(1)	アース線	
				開閉器容量	B種ヒューズ	定格電流	太さ×本数	こう長	太さ×本数		
			Ⓓ	Ⓐ			Ⓖ		Ⓚ 注(2)	太さ	ネジ
標準機・ヒータレス（含む冷専）	単相	P40～P56	20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	φ2.0×2	23m	φ1.6×3	φ1.6	M5
		P63	20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	φ2.0×2	20m	φ1.6×3	φ1.6	M5
	三相	P40～P63	15A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	φ1.6×3	29m	φ1.6×3	φ1.6	M5
		P80	20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	φ2.0×3	33m	φ1.6×3	φ1.6	M5

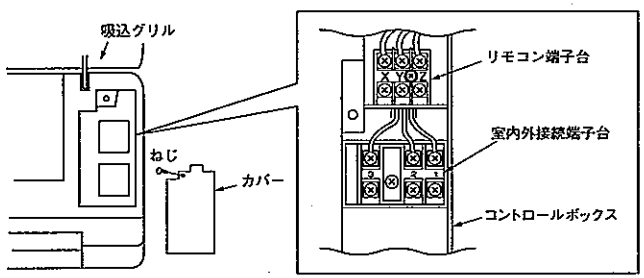
	室外機		漏電遮断器 定格電流	手元開閉器		配線用遮断器	電源配線 注(1)		内外接続線 注(1)	アース線	
				開閉器容量	B種ヒューズ	定格電流	太さ×本数	こう長	太さ×本数		
			Ⓓ	Ⓐ			Ⓖ		Ⓚ 注(2)	太さ	ネジ
ハイパーインバータ・ヒータレス	単相	P40～P56	20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	φ2.0×2	23m	φ1.6×3	φ1.6	M5
		P63～P80	30A,30mA,0.1sec以下	30A	30A	30A	5.5mm²×2	24m	φ1.6×3	φ1.6	M5
	三相	P40～P56	15A,30mA,0.1sec以下	15A	15A	15A	φ1.6×3	29m	φ1.6×3	φ1.6	M5
		P63～P80	20A,30mA,0.1sec以下	30A	20A	20A	φ2.0×3	33m	φ1.6×3	φ1.6	M5

配線の取り付け

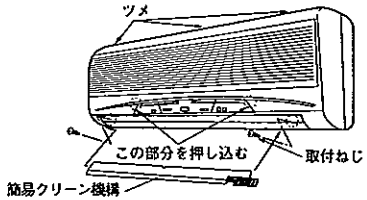
(1)ハイパーインバータシリーズ40～56、標準シリーズ40～63の場合

①吸込グリルを開けます。(吸込グリル下部両端を引き、ラッチを外してから手応えのある所まで引き上げてください。吸込グリルは60°位開いた所で止まります。)
②カバーのねじを外して、カバーを外してください。
③コントロールボックスに取り付けられている２つの端子台の内、上方に付いている端子台に、リモコンコードを取り付けます。
④コントロールボックス下方に付いている端子台に、室内外接続線を取り付けます。
(室内外接続線は配線クランプにて固定してください。)
⑤カバーを取り付け、ねじを締めます。
⑥吸込グリルを閉めます。
(注意)
・配線を端子台に取り付けるときは、端子番号を確認してから取り付けてください。

●パネルの取り外し順序
①簡易クリーン機構を取り外します。
②取り付けねじを外してください。(２ヶ所)
③前面パネル下部を手前に浮かし、上部を押し上げる様にして外してください。
(上部３ヶ所のツメを外します。)



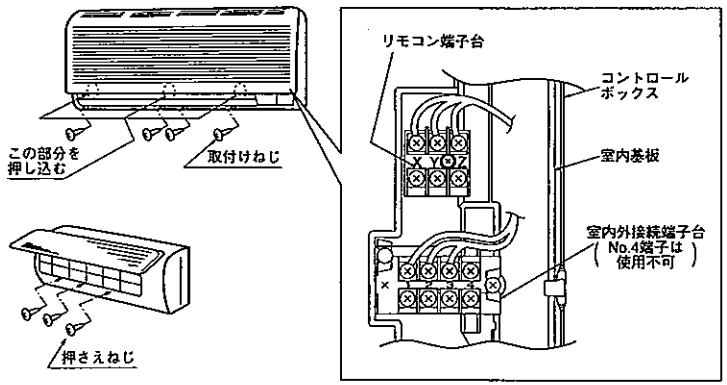
●パネルの取り付け順序
①エアフィルタは必ず取り外してください。
②前面パネルを本体に被せます。
③図の⋯部を正面から押します。
④取り付けねじを締めます。
⑤エアフィルタをセットしてください。
⑥簡易クリーン機構を取り付けてください。



(2)ハイパーインバータシリーズ63～80、標準シリーズ71～80の場合
①前面パネルを取り外します。
②コントロールボックスに取り付けられている２つの端子台の内、上方に付いている端子台に、リモコンコードを取り付けます。
③コントロールボックス下方に付いている端子台に、室内外接続線を取り付けます。（室内外接続線は配線クランプにて固定してください。）
④前面パネルを取り付けます。
（注意）
・前面パネルの取り付け、取り外しは、下図を参照ください。
・配線を端子台に取り付けるときは、端子番号を確認してから取り付けてください。

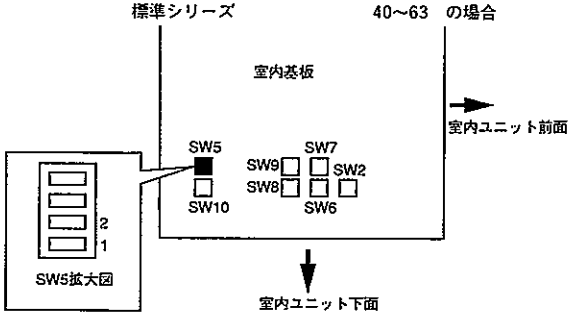
●パネルの取り外し順序
①吸込グリルを開けます。(吸込グリル下部両端を引き、ラッチを外してから手応えのある所まで引き上げてください。吸込グリルは60°位開いた所で止まります。)
②エアフィルタを取り外してください。
③押さえねじを外してください。(３ヶ所)
④吸込グリルを閉めます。(吸い込みグリル下部両端を持ち、下方向にゆっくり下げラッチが掛かる程度に軽く押し、更に中央部を軽く押してください。)
⑤前面パネルの取り付けねじを外してください。
（４ヶ所）
⑥前面パネル下部を手前に浮かし、上部を押し上げる様にして外してください。

●パネルの取り付け順序
①前面パネルを本体に被せます。
②図の⋯部を正面から押します。
③前面パネルの取り付けねじを締めます。
④吸込グリルを開けて押さえねじを締めます。
⑤エアフィルタをセットしてください。
⑥吸込グリルを閉めてください。

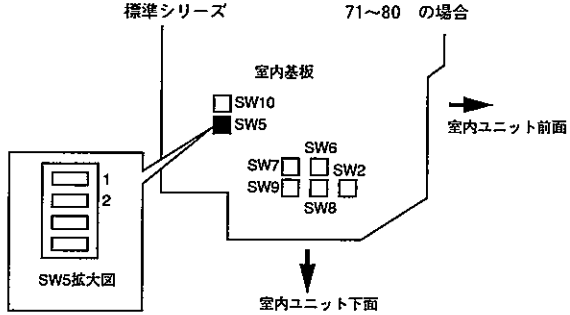


●アドレススイッチ位置（ブルーラル機の場合は室内基板をコントロールボックスから取り出して設定を変更してください。）
（注意）
・室内基板をコントロールボックスから取り出すためには、前面パネルを取り外す必要があります。
・前面パネルの取り付け、取り外しには、左下図を参照してください。

(1)ハイパーインバータシリーズ　40～56
標準シリーズ　40～63　の場合



(2)ハイパーインバータシリーズ63～80
標準シリーズ　71～80　の場合

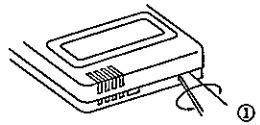


Ⓑ リモコン　リモコンは別売です。

リモコンの据付

お願い　次の位置は避けてください。
1）直射日光の当たる場所　　3）湿気の多い所・水の掛る所
2）発熱器具の近く　　4）取付面に凸凹がある所

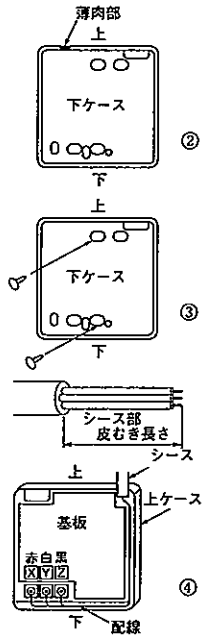
注意
リモコンの上ケースを取り外した場合は、リモコンを据付けるまで、基板上にゴミ或いは水分等が付着しないように、梱包箱或いは梱包用袋内に入れて保護してください。



取付要領

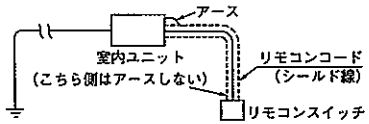
露出取付

①リモコンケースをはずしてください。
●リモコン上部の凹部にマイナスドライバ等を差し込んで軽くねじり、ケースをはずします。
②リモコンコードの取出し方向は、上方向のみ可能です。
●リモコン下ケース側の上方薄肉部をニッパー・ナイフ等で切り取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。
③リモコン下ケースを付属の木ねじ２本で壁に取り付けます。
④リモコンコードを端子台に接続してください。
室内機とリモコンの端子番号を合わせて接続してください。端子には極性があるので間違えると運転できません。
端子：Ⓧ赤線、Ⓨ白線、Ⓩ黒線
リモコンコードは、0.3mm²(推奨)～最大0.5mm²以下としてください。
また、リモコンケース内を通る部分はシース部を皮むきしてください。
各配線の皮むき長さは下記の通りです。
黒：195mm
白：205mm
赤：215mm
⑤上ケースを元通りに取り付けてください。
⑥リモコンコードをコードクランプを使用して壁等に固定します。
⑦室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。
Ⓔ 機能の設定の項をご覧ください。



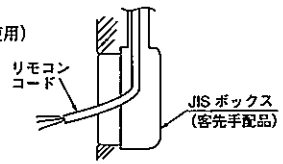
リモコンコードを延長する場合の注意 ▶ 最大総延長600m

コードは必ずシールド線を使用してください。
●全形式：0.3mm²×3心〔MVVS3C（京阪電線）〕
注(1)延長距離が100mを超える場合は、下記のサイズに変更してください。但し、リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm²以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズ変更してください。
100～200m以内……0.5mm²×3心
300m以内……0.75mm²×3心
400m以内……1.25mm²×3心
600m以内……2.0mm²×3心
●シールド線は必ず片側のみをアースしてください。



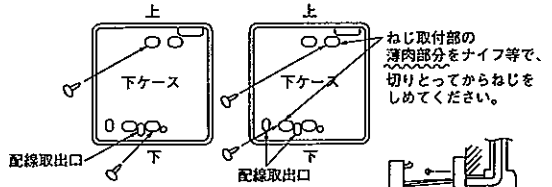
埋込取付

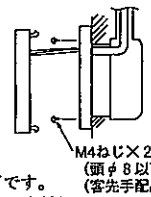
①JISボックスとリモコンコード
（延長の場合はシールド線を必ず使用）
をあらかじめ埋込んでおきます。



〔使用可能〕JISボックス〕
●JIS C 8336
1個用スイッチボックス
2個用スイッチボックス

1個用スイッチボックスの場合　2個用スイッチボックスの場合

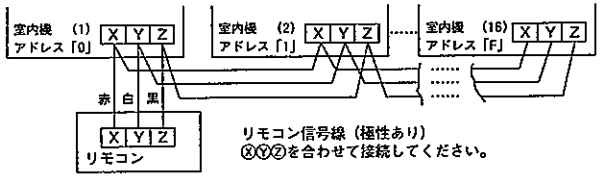




②リモコンの上ケースを外してください。
③下ケースをM4ねじ2本（頭φ8以下）を用意してJISボックスに取付けてください。
④リモコンコードをリモコンに接続します。
露出取付の項をご覧ください。
⑤上ケースを元通り下ケースにはめ込み取付完了です。
⑥室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。
Ⓔ 機能の設定の項をご覧ください。

Ⓒ 1リモコンによる複数台室内機制御

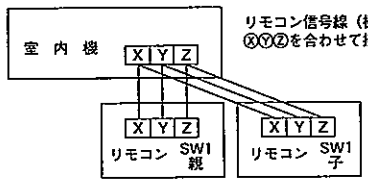
室内ユニット最大16台まで接続可能です。
①各室内ユニット間を3心のリモコン線にて渡り配線してください。
延長リモコン線については、前記の項〔リモコンコードを延長する場合の注意〕をご覧ください。
②室内基板上のロータリースイッチSW2により、リモコン通信アドレスを重複しないよう「0」～「F」に設定してください。



③電源投入後、リモコンのエアコンNoを押すと室内機アドレスが表示されますので、▲ ▼ ボタンで接続されている室内機アドレスがリモコンに表示されることを、必ず確認してください。

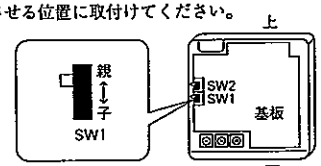
Ⓓ 複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット1台（又は1グループ）に対して最大2個までのリモコンを接続できます。
①子リモコンのリモコン連絡線（3心）は室内ユニットから取る方法と親リモコンからの渡り配線による方法があります。



②子リモコンの切換スイッチSW1を子に設定してください。
工場出荷時は親設定です。
（注）リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。
親リモコンを室温検知させる位置に取付けてください。

スイッチ	設定	機能の内容
SW1	親	親リモコン
	子	子リモコン



Ⓔ 機能の設定

●本機の各機能は、リモコンと室内機を接続した際に、標準的な設定である、下表「○」印の項目に、自動的に設定されます。
従って、新たに設定をする必要はありません。
但し、「○」印の初期設定を変更したい場合は、その機能番号の項目のみ、設定をしてください。
設定方法は、リモコンの据付説明書をご覧ください。
●▨の項目は、本機には機能がありませんので、設定しないでください。

(1) リモコン機能

機能番号Ⓐ	機能内容Ⓑ	設定内容Ⓒ	初期設定
01	ｸﾞﾘﾙ昇降設定	昇降無効	○
		有効50Hz地区	
		有効60Hz地区	
02	自動運転設定	自動運転有効	○
		自動運転無効	
03	温度設定	温度設定有効	○
		温度設定禁止	
04	運転切換	運転切換有効	○
		運転切換禁止	
05	運転/停止	運転/停止有効	○
		運転/停止禁止	
06	風量調整	風量調整有効	○
		風量調整禁止	
07	風向調整	風向調整有効	○
		風向調整禁止	
08	ﾀｲﾏｰ	ﾀｲﾏｰ有効	○
		ﾀｲﾏｰ禁止	
09	ﾘﾓｺﾝｾﾝｻ設定	ﾘﾓｺﾝｾﾝｻ無効	○
		ﾘﾓｺﾝｾﾝｻ有効	
10	停電補償設定	停電補償無効	○
		停電補償有効	
11	換気設定	換気接続なし	○
		換気連動	
		換気非連動	
12	温度範囲設定	表示変更有	○
		表示変更無	
13	室内ﾌｧﾝ運調	ﾌｧﾝ3速	○
		ﾌｧﾝ2速	
		ﾌｧﾝ1速	
14	冷専/ﾋｰﾄﾎﾟﾝ	ﾋｰﾄﾎﾟﾝ	※
		冷専	
15	外部入力設定	個別運転	○
		全台同一運転	
16	ｴﾗｰ表示設定	ｴﾗｰ表示有り	○
		ｴﾗｰ表示無し	
17	ﾙｰﾊﾞ制御設定	ﾙｰﾊﾞ4位置停止	○
		ﾙｰﾊﾞﾌﾘｰ停止	

(2) 室内機能

機能番号Ⓐ	機能内容Ⓑ	設定内容Ⓒ	初期設定
01	高天井設定	標準	○
		高天井1	
03	ﾌｨﾙﾀｰｻｲﾝ設定	表示しない	
		180時間後	○
		600時間後	
		1000時間後	
		1000時間→停止	
04	ﾙｰﾊﾞ制御設定	ﾙｰﾊﾞ4位置停止	○
		ﾙｰﾊﾞﾌﾘｰ停止	
05	外部入力切換	ﾚﾍﾞﾙ入力	○
		ﾊﾟﾙｽ入力	
06	運転許可／禁止	通常運転	○
		有効	
07	暖房室温補正	通常運転	○
		室温補正+3℃	
08	暖房ﾌｧﾝ制御	弱風	○
		停止→弱風	
09	凍結防止温度	2.5℃	
		1℃	○
10	凍結防止制御	ﾌｧﾝ制御有効	○
		ﾌｧﾝ制御無効	
11	電気集塵機	ﾌｧﾝ制御無効	○
		ﾌｧﾝ制御有効	
12	加湿器制御	ﾄﾞﾚﾝﾓｰﾀ非連動	○
		ﾄﾞﾚﾝﾓｰﾀ連動	

注1:「※」印の初期設定は、接続される室外機の機種（ヒーポン機／冷専機）により、自動判別されます。
注2: (1)リモコン機能 の⑰ルーバ制御設定を変更する場合は、(2)室内機能 の④ルーバ制御設定も変更してください。

FDKV

Ⓕ 冷房試運転操作

リモコンを次の手順で操作してください。

1．冷房試運転の開始
① 運転／停止ボタンを押して、運転します。
② 運転切換ボタンにより、「冷房」を選択します。
③ 試運転ボタンを3秒以上押します。
「項目▲▼で選択」→「セットで決定」→
「冷房試運転▼」と、表示が切り換わります。
④「冷房試運転▼」の表示で、セットボタンを押すと、冷房試運転を開始します。
表示は、「冷房試運転」となります。

2．冷房試運転の解除
運転／停止ボタン又は、温度設定▽△ボタンを押すと、冷房試運転を終了します。
「冷房試運転」表示が消灯します。

運転データの確認

リモコン操作により、運転データの確認ができます。
① 点検ボタンを押します。
「項目▲▼で選択」→「セットで決定」→「運転データ表示▼」と、表示が切り換わります。
②「運転データ表示▼」の表示で、セットボタンを押します。
③表示が「室内00▲」（点滅）となります。
▲▼ボタンで、表示したい室内機番号を選びます。
（室内機が一台しか接続されていない時は、室内番号は切り換わりません。）
④セットにより確定します。
（室内機番号が点滅から点灯に変わります。）
「データ読込中」（データを読込む間点滅表示）
↓
「運転データ▲▼」と表示され、01番のデータが表示されます。
⑤▲▼ボタンにより、現在の運転データを01番より順に表示します。
表示される項目は右記の通りです。
※機種により該当するデータがないものは、その項目は表示されません。
⑥室内機を変更する場合は、エアコンNo.ボタンを押すことにより、室内機選択表示に戻ります。
⑦ 運転／停止ボタンを押すと、終了します。

設定の途中で、リセットボタンを押すと、一回前の設定画面に戻ります。

番号	データ項目
01	運転ﾓｰﾄﾞ
02	設定温度
03	吸込温度
04	内熱交温度1
05	内熱交温度2
07	室内ﾌｧﾝ速度
11	室内運転時間
21	外気温度
22	外熱交温度1
23	外熱交温度2
24	運転Hz
26	低圧
27	吐出管温度
28	ﾄﾞｰﾑ下温度
29	CT電流
31	室外ﾌｧﾝ速度
32	静音ﾓｰﾄﾞ有効/無効
33	63H2 ON/OFF
34	63H1 ON/OFF
35	ﾃﾞﾌﾛｽﾄ ON/OFF
36	ｺﾝﾌﾟ運転時間
37	膨張弁開度1
38	膨張弁開度2

Ⓖ 制御の切換

（注）□囲みは、工場出荷時の設定

J-1	短絡	遠方運転入力（CnT）をレベル入力	SW9-3	OFF	――
	開放	遠方運転入力（CnT）をパルス入力		ON	必ず運転（基板上のコネクタCnBも同時に抜く）
J-2	短絡	暖房サーモOFF時弱風			
	開放	暖房サーモOFF後5分間停止し弱風			
J-3	短絡	通常運転			
	開放	遠方運転入力（CnT）により運転禁停			
J-4	短絡	――			
	開放	暖房室温検知補正+3℃			